



平成28年9月8日

各位

会社名 株式会社リボミック
代表者名 代表取締役社長 中村義一
(コード番号：4591 東証マザーズ)
問合せ先 取締役執行役員管理本部長 宮崎正是
TEL. 03-3440-3303

精製用新規アプタマー樹脂に関する助成金収入（営業外収益）計上のお知らせ

当社は、平成27年10月7日付で公表しましたとおり、平成26年度補正、経済産業省・中小企業庁「ものづくり・商業・サービス革新補助金」について、中小企業庁の委託を受けて業務を主管する東京都より採択され、「Fc融合タンパク質精製用の新規RNAアプタマー樹脂の開発」を進めてまいりました。

この度、当該事業に係る補助金額が確定したことにより、平成29年3月期第2四半期において、助成金収入として営業外収益を計上することになりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

1. 営業外収益の計上額

助成金収入 5,998千円

2. 本事業の状況

当社は本事業において、当社のIgGアプタマー（RBM101）を用いて、Fc融合タンパク質を中性条件で精製できることを特徴とする、アプタマー樹脂およびカラムを作成いたしました。

現在、大学、公的機関、企業においてサンプル評価が実施されております。今後、当社は本RNAアプタマー樹脂およびカラムの事業化を目指し、更にプロジェクトを継続してまいります。

3. 今後の見通し

上記、助成金収入は平成28年5月12日に公表しました平成29年3月期の業績予想に織り込み済みです。

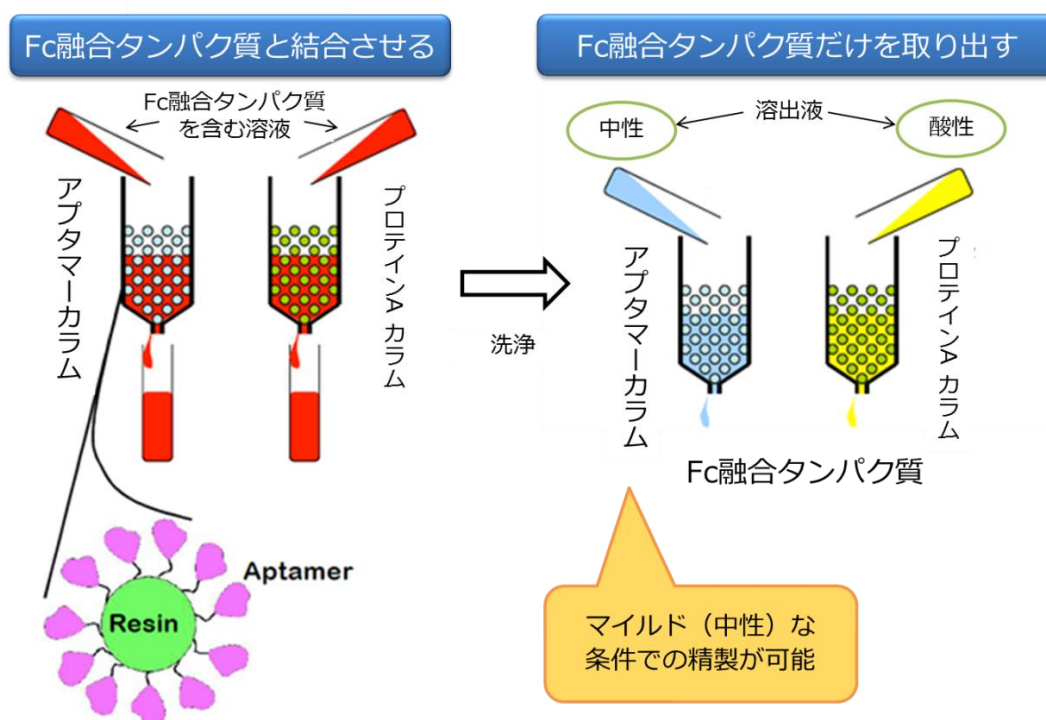
<補足説明>

Fc融合タンパク質精製用のIgGアプタマー樹脂の特徴

Fc融合タンパク質とは、IgG（免疫グロブリン）のFc部分とタンパク質とを結合させたもので、元のタンパク質の活性を保ちつつ、体内でのより長い滞留時間を有するなど、医薬品として性能を向上させた医薬品です。販売された製品は巨大な市場を形成し、現在、新製品の開発が世界的に活発に行われています。

これまで、Fc 融合タンパク質の製造における分離・精製の工程は、Fc 部分に結合するプロテインAという製品を用いて行われてきました。プロテインAで精製する際には、酸性の溶液を使うことが必要となります。しかし、Fc 融合タンパク質の中には、酸に弱いものもあり、それらは酸性の溶液を用いると変性し、活性を失います。当社の IgG アプタマー (RBM101) はプロテインAと同じようにFc 部分に結合しますが、マイルド (中性) な条件で分離・精製が可能であり、酸に弱いFc 融合タンパク質の活性を損ねないため、Fc 融合タンパク質の医薬品製造における、新たなコア技術となる可能性があります。さらに、RBM101 は、Fc 融合タンパク質だけでなく、抗体医薬品の精製や健常者献血からの IgG (免疫グロブリン) の分離・精製においても、同じ原理で、既存のプロテインAに代替する可能性を有しております。

本 RBM101 プロジェクトは、当社の主たる事業である、アプタマーそのものを医薬品にするという創薬事業とは性質が異なりますが、アプタマー技術の応用可能性を証明する重要なプロジェクトの一つと位置付け、取り組んでおります。



株式会社リボミックについて

株式会社リボミックは、次世代新薬として注目されている核酸医薬の一種「アプタマー医薬」の開発を目的とする、創薬プラットフォーム系バイオベンチャーです。当社の創薬基盤技術である「RiboART システム」は、様々なアプタマー医薬の開発に応用することが可能です。株式会社リボミックは疼痛・眼疾患・線維症を始めとして、広い領域の Unmet Medical Needs (未だに満足すべき治療法のない疾患領域の医療ニーズ) に対する新薬の提供を目指してまいります。

以上